

身近な理科を調べる

参考図書 (reference book) とは

特定の知識や情報について調べることができるものを参考図書とよんでいます。小説などとは違い、必要なところだけ読めば用が足りる、たとえば、事典・辞典・図鑑・年鑑・便覧・白書などです。



『理科年表』

国立天文台編 丸善出版 1925年～

大正14年(1925)創刊から、終戦前後を除き毎年、刊行されている科学データブックです。信頼性を最優先し、基本データ、業績が認められたデータのみを記載しています。毎年のおもなデータや解説の改訂は序文で紹介しています。附録には、第1回(1901年)から最近までの科学分野におけるノーベル賞受賞者と受賞理由、数学公式、慣用の計量単位などを収録しています。

1冊で以下のような自然科学の分野を網羅した簡便な資料です。

- *暦部:各地の日出入、日食、月食など
- *天文部:星座、銀河、天文学上のおもな発明発見と重要事項など
- *気象部:気温の日別平年値、世界・日本のおもな気象災害など
- *物理/化学部:国際単位系(SI)、安定同位体、化学上のおもな発明および発見など
- *地学部:日本・世界のおもな島、日本付近のおもな被害地震年代表など
- *生物部:昭和59年新設。年次別・性別人口・出生・死亡数(日本人)など
- *環境部:平成17年新設。世界の年平均気温の偏差など

南極観測隊が必ず持って行くものの一つがこの『理科年表』です。観測のために最新のデータが必要で、観測船の出航に間に合わせるため、11月に発行されるようになったそうです。(丸善出版HP「理科年表エピソード」より)

『図説日本の河川』

小倉紀雄ほか編 朝倉書店 2010年

日本全国の52の河川について図版を交えて解説しています。巻末の付表「日本の主要河川の概要(流域面積順)」では幹川流路延長(km)、水源、河口または合流先などを一覧できます。巻末に索引が付いています。

『天文年鑑』

天文年鑑編集委員会編 誠文堂新光社 1928年～

1928年に天文同好会の編纂で発行され、編纂・発行者が変わりながら、1948年から現在の体制で、毎年刊行されています。

その年に起こる天文現象と前年の観測結果などの情報を掲載しています。

『理科年表』で調べてみました！

問① 日本で一番大きな川は、なんという川？

答 流域面積では、利根川が16,840km²、長さ(幹川流路延長)では信濃川が367kmです。

この項目では、一覧表で河川名、観測地点などもわかります。

(「地学部」「地理」【日本のおもな河川】)

問② 令和3年(2021)に日食はあった？

答 6月10日(金環日食)と12月4日(皆既日食)の2回ありました。日本ではいずれも見ることができませんでした。

この項目では「食の始め」から「食の終り」までの「中央標準時」「経度」「緯度」といった状況なども記されています。

(令和3年版「暦部」【日食】)

調べてみよう！

- * 神戸の日出・日入の時刻は夏と冬ではどれくらいちがうの？
- * 「黄砂」って何？
- * 日本からフランスまでの距離はどれくらい？

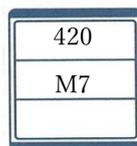
まずは、紹介されている参考図書を調べてみましょう！

上記の参考図書はこちら→

(『図説日本の河川』は3階の専門書の棚に並んでいます)

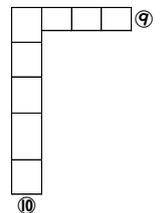
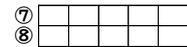
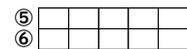
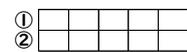
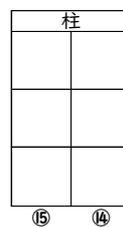
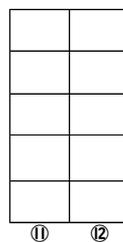
図書館の本は、本の背に内容がわかるよう分類ラベルが貼ってあります。

理科関係のことは【400】～【460】を探してみてください。



カウンター

中央図書館 3階



わからないことがあれば、何でもお気軽に図書館員におたずねください。